

# 鳥取・桂見遺跡

— 八ツ割地区・堤谷東地区・堤谷西地区 —

1 所在地 鳥取市桂見

2 調査期間 一九九三年(平5)四月～一九九五年十二月

3 発掘機関 鳥取県教育文化財団東部埋蔵文化財調査事務所

4 調査担当者 牧本哲雄・小谷修一・高垣陽子

5 遺跡の種類 遺物包含層・集落跡

6 遺跡の年代 縄文時代中期～室町時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

桂見遺跡は、鳥取市街地から西方へ約4km、湖山池南東の標高約

二mの水田地帯及び丘陵裾部・谷部に位置する。一九九三年から県

道整備事業に伴い、発掘調

査が実施された。その結果、

縄文時代後期の包含層で、

ほぼ完形の丸木舟二艘、ネ

ット状編み物・杓子などの

木製品、土器・石器が多量

に出土した。縄文時代晚期

～弥生時代前期にかけては

砂州が発達し、その上面で



(鳥取北部・鳥取南部)

土坑が検出されている。弥生時代後期～古墳時代前期の包含層では、

多量の建築材などからなる木器溜りが検出され、また、丘陵裾部で

弥生時代後期の竪穴住居が五棟検出されている。奈良～平安時代で

は丘陵裾部・谷部で建物跡、低地部で杭列・溝状遺構などが検出さ

れている。この時期の出土遺物としては、木器が集中して出土した

地点があるのが注意される。中世の包含層では、水田に伴うと考え

られる杭列・溝状遺構などが検出されている。木簡は、九四年度調

査の奈良～平安時代の包含層中から一点出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) [V米□□]

104×25×5 033

形状は、一端の左右に切り込みを入れ、他端を尖らせたもので完

形である。表面及び側面は丁寧な削りにより平滑になっているが、

裏面は割ったままで加工は施されていない。

9 関係文献

鳥取県教育文化財団「桂見遺跡―八ツ割地区・堤谷東地区・堤谷西地区―」(一九九六年)

(牧本哲雄)

